



【本号のトピックス】

IAGG 2017参加報告／厚労省老健事業に本会の事業が採択される／
本学会員の取り組みがNHKにて紹介される／支部だより／
委員会だより(認定制度委員会, 学術用語委員会)／学会だより

International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) 2017 San Francisco に参加して

枝広あや子
東京都健康長寿医療センター研究所

老年学・老年医学の国際交流協会である IAGG の 4 年ごとに開催する国際学術会議が、The IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics です。本年は第 21 回 IAGG 国際学術会議が、2017 年 7 月 22 ～ 27 日に米国サンフランシスコで開催されました。

IAGG は世界に 73 の会員組織があり、医学、健康、保健、社会福祉、教育研究、行政政策などのあらゆる分野にまたがる老年学に関するテーマを扱っています。今回の IAGG 2017 では 75 カ国 6,000 人あまりの参加者が集まりました。日本からも多くの老年医学、老年社会学などの研究者が発表を行うなかで、櫻井 薫理事長はじめ日本老年歯科医学会会員も参加し発表を行いました。

本学会のオープニングセレモニーにおける講演では、「Frailty」モデルで知られる Linda Fried 先生（Columbia University 公衆衛生学教授）と、高齢者の生活の質の向上を推進する非営利団体の Jo Ann Jenkins 先生（AARP；American Association of Retired Persons, CEO）が基調講演をされました。

講演において Fried 先生からは、健康寿命の延伸により創出された高齢者の“新しいライフステージ”を、高齢者みずから設計し、健康に自己投資して社会参加を通じて自己実現することの社会的価値について、“Third Demographic Dividend；第 3 の人材的利益”という表現により世界の老年学者に向けた激励をいただきました。また Jenkins 先生からは、AARP 財団の Drive to End Hunger（高齢者の貧困による飢餓を減らすためのプログラム）へのモータースポーツ界からの支援関係の締結、トヨタ自動車の助成を受けた高齢ドライバー支援プログラムなどを通じた、高齢者の社会参加に関する先見的で革新的な取り組みを推進する力強いメッセージが送られました。

こうした世界の潮流のなかで、高齢者の健康的な社会参加には健康的な食生活が必要不可欠であることは共通認識となっています。オーラルフレイルの概念を含め、



会場入り口



講師の Linda Fried 先生

高齢先進国であるわが国の歯科界からのさらなる情報発信の必要性が強く認識された学会でした。

次回会議は 2021 年 6 月 20 日よりアルゼンチンのブエノスアイレスで開催予定となっております。

平成 29 年度老人保健健康増進等事業 (老人保健事業推進費等補助金)の紹介

吉田光由

H29 老健事業特任委員会委員長

本学会から平成 29 年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）に応募した結果、無事採択されました。そこで 2017 年 6 月 28 日に発足した特任委員会で本事業を実施することになりましたので、その概要をご報告いたします。

事業名

終末期を含む中重度の要介護高齢者における歯科医療及び口腔衛生管理ニーズの実態及び歯科医師、歯科衛生士の関与のあり方に関する調査研究事業

特任委員会構成

櫻井 薫（研究代表者）、吉田光由（委員長）、秋野憲一、足立 融、石黒幸枝、伊藤加代子、糸田昌隆、井上 誠、猪原 健、岩佐康行、梅本丈二、太田博見、大野友久、鴨田勇司、阪口英夫、坂本まゆみ、島田千穂、高野直久、高橋賢晃、柊安秀樹、恒石美登里、戸原 雄、西 恭宏、花形哲夫、平野浩彦、古屋純一、松山美和、三宅 智、森田達也、山崎 裕、渡邊 裕、渡部芳彦

1. 事業の背景

2015 年 12 月現在、口腔衛生管理体制加算を実施している介護保険施設は 56%となり、歯科専門職と連携した口腔衛生管理体制は整いつつある。しかしながら、入所者個別のサービスである口腔衛生管理加算を算定している施設は 7%と限られており、施設入所者の心身および認知機能の低下や口腔内環境の複雑化が進み、より専門的な対応が必要となってきている状況が予想される。地域包括ケアシステムの構築を目指すなか、中重度の要介護高齢者が在宅療養を継続できなくなる一番の原因は、誤嚥性肺炎による入院である。これが要介護度の悪化を招き、在宅療養をより困難にしていく悪循環をもたらしている。口腔衛生管理が誤嚥性肺炎予防に効果的であることは周知の事実であるが、これら中重度の要介護高齢者の介護度の重症化予防、穏やかな終末期を迎えることにいかに役立っているかについては十分な根拠がないのが実情である。そこで本調査では次の内容について事業を行うこととした。

2. 事業目的

- ①中重度の要介護高齢者に対する適切な歯科医療及び口腔衛生管理の充実を図るため、終末期に至るまでの口腔状態の変化等を含め実態を把握する。
- ②終末期がんおよび緩和ケアチーム介入患者の口腔衛生管理に関する調査を行い、要介護高齢者との相違等を明らかにする中で、がん以外の終末期口腔衛生管理体制についての知見を得る。

③医療機関・介護保険施設における協力歯科医療機関の歯科医師や介護保険施設の歯科衛生士の効果的な介入事例の収集・分析を行い、歯科医師や歯科衛生士の関与のあり方を提案する。

3. 事業内容

①では、全国の日本老年歯科医学会の認定医が関与している医療機関・介護保険施設など中重度高齢者の多い 25 施設の入所者約 1,500 名の口腔と全身状態に関する実態調査を行う（口腔ケア実施状況、歯科専門職の関与状況、口腔内状況、義歯の状態、摂食嚥下機能、介護度 ADL、合併疾患、服薬状況、摂食量、食形態、BMI、MNA[®]-SF 等）。とりわけ、残根や重度歯周病による要抜去歯と、そのケア困難感との関係を明らかにするとともに、これら要抜去歯のある者の歯科治療を阻害する要因について明らかにする。

②では、歯科医師が積極的に関与している終末期がんおよび緩和ケアチーム介入患者において、看取りに至るまでの歯科の関わりを明らかにする。とりわけ、終末期における歯科的治療の必要性について明らかにすることで、①の要介護高齢者の終末期における歯科の関わり方との違いを明確にする。以上より、がん以外の終末期口腔衛生管理体制について検討する。

③では、上記の調査から、医療機関・介護保険施設、さらには在宅において看取りに関わった事例や、地域の医療、介護資源との効果的な連携事例について好事例を収集し、先駆的な取り組みや体制が確立している地域についてヒアリング調査を実施する。

以上の結果をもとに、中重度の要介護高齢者が施設や在宅で療養を続けていくために求められる口腔内環境、口腔衛生管理提供体制を提案することとしています。

4. 会員の皆様へのご協力をお願い

本事業の事業金額は 1,700 万円であり、可能なかぎり多くの施設や病院で調査が実施できればと考えています。そこで本事業では、会員の皆様にご協力をいただきたいと思っております。会員の皆様が関与されている介護保険施設や緩和ケア病棟において上記の調査が実施できそうな場合は、学会事務局までご連絡ください。詳細をご連絡いたします。

なにとぞよろしくお願いいたします。



食事観察サポートソフト「い〜とみる」がNHK総合テレビで紹介

本年6月16日(金)、「第30回日本老年学会総会」合同シンポジウムの一つとして「治し支える医療におけるエンドオブライフケア」(於:名古屋国際会議場)が開催され、本学会から長谷剛志先生(公立能登総合病院歯科口腔外科)をシンポジストに推薦し、登壇していただきました。過日、その取り組みが全国ニュース「おはよう日本」(NHK総合テレビ:7月23日(日))で紹介されました。推薦した私にとっても嬉しいかぎりです。

食することに不安を抱える高齢者を対象に、歯科医師が多職種と協働して、食支援する取り組みが広がる一方で、施設や連携する職種によって観察視点や評価・対応の方向付けに一貫性がなく、さらには、地域に食事を評価する用紙や類似のパスが多く存在することで、かえって患者や家族の混乱を招いているのも現状のようです。そこで、今後、地域包括ケアのなかでの確かな食支援連携を図ることを目的に、長谷先生が、食事観察サポートソフト「い〜とみる」(株式会社 八光: <https://www.eatmiru.com>)を監修しました。療養環境を問わず高齢者の食事場面を観察し、25項目の所見をチェックすると現状の問題点と対応策が自動的に表記されます。そして、①全身状態、②認知機能、③口腔機能、④咽頭機能、⑤姿勢の5つの視点から、多角的にス

コア化されるシステムとなっています。施設でのミールラウンドや在宅診療の現場において「食べる力」を見える化することによって、多職種間で食について共通認識でき、現状の食べる機能がイメージしやすく、経時の変化も一目瞭然です。

最期まで口から食べることを支える取り組みは、エンドオブライフケアにおいて重要な役割を担います。生が終わるときまで、最善の生を生きることができるよう個々の「食べる力」を考える時代です。参考にしていただければ幸いです。(櫻井 薫)



「い〜とみる」カタログより

支 部 だ よ り

愛知支部共催セミナー 「東海オーラルマネジメント研究会」 開催報告

愛知支部 谷口裕重

第3回東海オーラルマネジメント研究会を2017年7月16日(日)13:00~16:30の日程で、ウインクあいちにて開催しました。今回のテーマは「様々なステージにおけるオーラルマネジメント」とし、3名の先生を講師として呼び込みました。

代表世話人である松尾浩一郎(藤田保健衛生大学医学部 歯科・口腔外科教授)より開会の挨拶があった後に、前田圭介先生(玉名地域保健医療センター摂食嚥下栄養療法部 NSTチェアマン)より「入院とオーラルマネジメント」とのタイトルでご講演いただきました。次に、糸田昌隆先生(大阪歯科大学口腔保健学科教授)より「リハビリテーションにシンクロしたオーラルマネジメント」とのタイトルでご講演いただき、3題目は猪原 健先生(猪原歯科・リハビリテーション科副院長)より「維持期におけるオーラルマネジメント」とのタイトルでご講演いただきました。最後に、世話人

である大野友久(国立長寿医療センター歯科口腔先進医療開発センター)より閉会の挨拶がありました。

今回の参加者は、合計322名(事前および当日申し込み275名、世話人24名、スタッフ23名)、協賛企業10社(展示7社+広告3社)のご協力によって盛況のうちに終会となりました。



左上から時計回りに松尾浩一郎、前田圭介、糸田昌隆、大野友久、猪原健各先生

長崎・宮崎・大分・鹿児島支部 共催セミナー 「第1回九州老年歯科フォーラム in 宮崎」開催報告

長崎支部 角町正勝

さる8月27日、119名の参加を得て、宮崎県歯科医師会館で「超高齢社会で求められる歯科医療とは・多職種連携を通して」と題して、第1回老年歯科フォーラムが開催されました。教育講演は潤和会記念病院の河野寛一先生が「脳とニューロリハビリテーション」、基調講演はあおぞら診療所所長の川越正平先生が「地域包括ケア時代におけるかかりつけ歯科医への期待」というテーマでご講演されました。シンポジウムは、歯科・看護師・STによる「多職種で行う食支援と口腔ケア」というテーマで熱く盛り上がりしました。



講師の先生・スタッフ一同

長野支部主催セミナー 「ミールラウンドを極める」開催報告

長野支部 伊沢正行

2017年9月2日(土)、松本歯科大学にて、長野支部主催セミナー「ミールラウンドを極める」が開催されました。参加者は82名で、歯科医師、歯科衛生士、看護師、管理栄養士など、多職種の方々にご参加いただきました。菊谷 武先生より「ミールラウンドのノウハウ」、栗原明子先生より「ミールラウンドの実際～その人らしく生きるために～」と題してご講演いただきました。セミナーの最後にはQ&Aが設けられ、さまざまな職種の現場における疑問に対し、先生方の経験を交えたご回答がなされ、終了予定時刻を過ぎるほどの活発な質疑応答が行われました。職種の壁を越えた、素晴らしいセミナーとなりました。



松本歯科大学にて行われたセミナーの様子

岡山支部共催セミナー 「地域・在宅高齢者の『食』に寄りそう」 開催報告

岡山支部 澤田弘一

岡山支部は、共催として「岡山県委託事業 要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師・管理栄養士による口腔栄養関連サービスの推進公開セミナー 地域・在宅高齢者の『食』に寄りそう」を、2017年9月3日(日)真庭市(岡山県北部)の湯原ふれあいセンターにおいて開催いたしました。参加者は44名でした。内容は、午前に「食べる楽しみを支える在宅医療」中村幸伸先生(訪問診療専門開業内科医・岡山県)、「最後まで地域で食べるための食支援」高橋賢晃先生(日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科)、「元気で暮らすために食事を見直してみよう！」水島美保先生(在宅栄養管理ステーションもぐもぐ大阪管理栄養士)の講演がありました。これらの内容を受けて、午後からは、高橋先生がコーディネーターを務め、坂本八千代先生(くらしき作陽大学食文化学部栄養学科管理栄養士)、村田尚道先生(岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター)、中村先生、水島先生がファシリテーターとなり、摂食嚥下困難者に対する食支援の方法について多職種でグループワークを行いました。



ワークショップでの集合写真

委員会だより

認定制度委員会

委員長 松尾浩一郎

近年の超高齢社会の到来により、歯科医療のニーズは急激に変化してきました。現在の高齢者歯科医療では、基本的な歯科診療技術に加えて、全身疾患や内服状況を把握し、摂食嚥下障害への対応も求められます。また、近年注目されるようになってきたサルコペニアやフレイルに対応するために、栄養の知識も必要です。このように対象患者の多様化に対応するためには、卒前の基本教育だけでは難しく、継続的な卒後教育が必要とされます。



卒後のアドバンスドの高齢者歯科医療に関する研修システムの位置付けとして、日本老年歯科医学会では、認定医と専門医の制度が制定されています。「認定医」とは、高齢者に必要とされる歯科医療について“基本的”な知識と診療技術を修得した歯科医師と定義され、「専門医」とは、その“専門的”な知識と診療技術を修得した歯科医師と定義されています。老年歯科の専門医とは、決してゴッドハンドをもつようなスペシャリストを意味するのではなく、高齢社会に対応できる総合的な診療能力を有する歯科医師だと考えます。そのため、専門医教育では、1) 高齢化と社会、2) 老化と身体、3) 歯科訪問診療、4) 摂食嚥下リハビリテーションの4項目に関するすべての研修を実施することが義務付けられています。

2017年の8月3日現在で、認定医が190名、認定制度指導医38名、専門医が53名、専門医制度指導医185名（重複なし）となっています。認定医や専門医を取得した先生たちが、地域での教育や連携の核となり、高齢者歯科医療が広がっていくことが今後重要と考えます。

そのため、本学会では、支部会や本部主催の認定セミナーを数多く開催しています。また、委員会では、地域で開催されている先生方が、認定医や専門医を取得しやすくする研修システムを議論しているところです。高齢者歯科医療についての知識と診療スキルを有する認定医と専門医がますます増えていくように、認定制度委員会として今後も啓発に努めてまいりたいと思います。

学術用語委員会

幹事 大神浩一郎

老年歯科医学は基礎から臨床まで、生命科学から社会科学まで、保健・医療・福祉の幅広い分野にわたる学術的な研究領域であり、学術用語も多岐にわたります。本委員会は、老年歯科医学学術用語の解説・整理と選択の指針を提示することを目的に活動しています。

2008年に「老年歯科医学用語辞典」を当時の学術用語委員会が中心となり作成しました。しかし、それから8年が経過し、新しい用語や、他学会との調整が必要な用語も認められたということもあり、さらなる本書の充実を図るべく用語を選定し、その解説を理事、代議員、学術用語委員の方々にご執筆いただき、昨年「老年歯科医学用語辞典第2版」を発刊いたしました。

その後も日々進歩する老年歯科医学に対応するためには、新しく生まれる用語、あるいは変化する用語に常に対応する必要があります。そのため、新出用語につきましては、用語の解説を学会誌に掲載していますので、ぜひご覧ください。また学術用語でぜひ付け加える必要があると思われる用語、あるいは今回掲載された用語の解説で加筆・修正が必要と考えられる用語につきまして、会員の皆様からのご意見を頂戴したいと考えております。ご意見を寄せられた用語については学術用語委員会で慎重に検討させていただき、次回の改訂時の参考にさせていただきます。会員の皆様のご意見をお待ちしています。

学会だより

リーフレット絶賛配付中！！

「口腔機能低下症」（歯科医師向け）および「くらしを支える老年歯科医学」（多職種向け）のリーフレットを引き続き頒布しております。

入手希望の方は
本会事務局まで
依頼ください。



学術用語委員会よりお知らせ

老年歯科医学用語の用語解説（「老年歯科医学用語辞典」に掲載されていない追加用語）を学会誌「老年歯科医学」と学会ホームページに随時掲載しております。

ご活用ください。
学会ホームページ→



第3回高齢者医療 臨床研修会を開催します！

「在宅高齢者等に対する歯科治療のリスク管理」

日 時：2017年12月10日(日)13:00～16:50

場 所：ベルサール神保町アネックス(東京都千代田区)

訪問診療時の理学的身体所見の重要性、とり方、リスクの発見、その回避および医科との連携について、実際に訪問診療をしている内科医より講義いただき、さらに、歯科医療の視点で具体的な対応や事例をもとに研修いたします。詳細は、学会ホームページをご参照ください。

・「身体所見から読み解く高齢者の健康状態」

講師：長尾哲彦(福岡県 原土井病院 みどりのクリニック 院長)

・「リスク回避・アクシデント発生時のチェアサイドでの具体的対応」

講師：岡 秀一郎(昭和大学医学部麻酔科学講座 講師)

・「症例提示」

講師：大渡凡人(九州歯科大学口腔保健・健康長寿推進センター 教授)



支部セミナーのご案内

★詳細は、学会ホームページでご確認ください。

・岡山支部共催セミナー

「病院歯科介護研究会 第20回総会・学術講演会」

日 時：2017年10月15日(日)9:40～16:00

会 場：岡山国際交流センター 8F イベントホール

テーマ：健・美・食 治し、支える歯科医療
～対人援助を意識する～

主 催：病院歯科介護研究会

・愛媛支部共催セミナー

「第21回『口から食べたい』セミナー」

日 時：2017年10月22日(日)9:30～16:00

会 場：松前町総合文化センター

テーマ：安全に食べるには

主 催：伊予歯科医師会、松前町

・群馬支部主催セミナー

「平成29年度群馬支部主催研修セミナー・シンポジウム」

日 時：2017年11月5日(日)13:30～17:00

会 場：群馬県歯科医師会館 4F 第2会議室

テーマ：多職種連携の現状と問題点

・石川支部共催セミナー

「平成29年度金沢市歯科医師会市民公開講座」

日 時：2017年11月12日(日)10:00～12:00

会 場：石川県歯科医師会館 2F 研修室

テーマ：いい歯の日 お口の健康フェスティバル

主 催：金沢市歯科医師会

・石川支部共催セミナー

「第10回石川県歯科医師会栄養士会連携研修会」

日 時：2017年11月26日(日)10:00～13:00

会 場：石川県歯科医師会館 2F 研修室

テーマ：地域包括ケアシステムで生きる歯科医師・栄養士の連携—歯科医師と歯科衛生士が栄養士と連携するために—

主 催：石川県歯科医師会

・岡山支部共催セミナー「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービスの推進 第7回公開セミナー」

日 時：2017年12月3日(日)9:30～15:30

会 場：井原市地場産業振興センター

テーマ：地域・在宅高齢者の「食」に寄り添う

主 催：岡山県、岡山大学病院、岡山大学歯学部

・岡山支部共催セミナー「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービスの推進 第8回公開セミナー」

日 時：2017年12月17日(日)9:30～16:00

会 場：岡山大学歯学部棟

テーマ：地域・在宅高齢者の「食」に寄り添う

主 催：岡山県、岡山大学病院、岡山大学歯学部

編集後記

台風一過、日増しに秋の風が吹き気持ちの良い季節になりました。アメリカと北朝鮮の間には新たな台風が発生していますが、日本においても政治の風が吹き、このニュースレターが発行される頃には新たな「希望」(?)が始まっているかもしれません。そんな希望に溢れた東京で、来年の学術大会は6月22～23日に開催されます。演題や参加の登録も年末には開始される予定です。ぜひ、多数の皆様のご参加を心からお待ちしております。

(北川 昇)



発行人 櫻井 薫

編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp